卒業式　式辞

長野県立大学を卒業される４期生の皆さん、グローバルマネジメント学部学科 163 名、食健康学科 30 名、こども学科 42 名の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。また大学院修了の２期生の皆さん、ソーシャル・イノベーション研究科 11 名、健康栄養科学研究科１名の皆さんも、ご修了おめでとうございます。

そしてまた、卒業生・修了生のご家族の皆様におかれましても、これまでの本学に対する厚いご支援の数々に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

今年の冬は雪の日が多く、ここにきてようやく野山に菜の花やコブシの花が咲きほこる、新たな門出に相応しい卒業式となりました。

本日は、阿部長野県知事を初め、各方面から多くのご来賓の方々にご臨席を賜りました。お忙しい中、お出で頂きましたご来賓の方々には、深く感謝申し上げます。後ほど、ご祝辞を賜りたいと存じます。

振り返れば、４期生の皆さんは、入学時において、コロナ禍のため入学者のうち半分しか寮に入ることができず、海外プログラムもかなり混乱した中での実施となりました。

しかし、そうした困難な状況にもめげず、皆さんは４年間の在学中、長野県立大学の学生として相応しい行動をとり、後輩たちへの範を示してくれました。コロナ禍による辛い経験は、皆さんのこれからの長い人生にとって、むしろプラスに働くものと思います。

今年も、卒業生の皆さんの 100%に近い就職率が達成されました。大変誇らしいと同時に、皆さんの４年間の努力に改めて敬意を表します。そして更に素晴らしいことは、就職を決めた皆さんが、後輩たちのために就活の勉強会を開いてくれたことです。こうした「就職アドバイザー」による勉強会が、本学の良き伝統として、毎年引き継がれることを心より願っています。

今日は、皆さんの卒業後の生き方について、お話いたします。

一つ目は人生 100 年時代の対応です。

学校での学び、就職、そして定年後のマルチステージでの生き方を考えた時、大事なことは、常に学び続ける意欲を持つことだと思います。そしてそのためには、自分が好きなこと、楽しいと思うことを見つけ、それを仕事に活かすことだと思います。また、好きなことは一つとは限りません。むしろたくさんあった方が、長い人生を退屈しないで過ごすことができます。ぜひ好きなことを学び続け、豊かで楽しい人生を送って頂きたいと思います。

二つ目は VUCA の時代の対応です。

本学での４年間、皆さんは様々なことに積極的にチャレンジしてきました。たくさんの成功や失敗を経験したはずです。コロナ禍の困難な状況も含め、そうした厳しい経験が、VUCA の時代を生き抜くタフな精神力を鍛えたはずです。

未来が予測困難であるということは、時に大胆に一歩を踏み出すことも必要だということです。日本人はともすればしり込みしがちで、チャンスを見逃してしまいがちです。「変化の時にこそチャンスあり」ということを忘れないでください。

３番目は、情報過多の時代の対応です。

フェイクニュースが洪水のように氾濫し、正しい情報が見つけにくい時代になりました。私は古い人間かもしれませんが、こういう時こそ教養の力が重要だと考えます。教養があれば、広い知識と深い思考を踏まえた上で、総合的に、複眼的に時代を見通す適切な判断ができるからです。

教養の力をつけるためには、本を読み、友と議論し、好奇心を持って世界を知ろうとすること、そしてそうして得た様々な体験を通して、確かな思考力と判断力を身につけることです。

また同時に、生成 AI を使いこなすスキルを身につけることも必須です。生成 AI の火付け役となった ChatGPT が急速に世の中に浸透し、今や皆さんのスマホからもプロンプトを入力することによって、膨大な知識を簡単に利用することが可能な時代になりました。これも教養の進化形と言えるかもしれません。

本学は、こうした新たな時代に相応しい力を、できる限り皆さんに身につけていただくために、４年間様々な学びを工夫し、皆さんと共に伴走してきました。

もしも、それでも VUCA の時代ですから、人生うまくいかないこともあるかもしれません。その時は、いつでもこの長野県立大学に帰って来てください。本学は卒業生にとって心の故郷であることを心掛け、皆さんが悔いのない人生をおくるための拠り所として、強い味方になりましょう。

これから皆さんが、長野県立大学の卒業生として、揺るぎない矜持と未来への高邁な志を携え、グローバルな社会で思う存分活躍されることを心より祈念し、私からの式辞といたします。

令和 7 年 3 月 14 日　長野県立大学 学長　金田一真澄